

みなまた 第10巻

元気な

事業所ファイル

合同会社 柏木農林

所在地 湯出1885番地

設立 平成30年4月

従業員数 15人

事業内容 素材生産、森林育成

(上) 高性能林業機械の導入で、作業の効率化が進んでいる。山中での作業は、暑さ・寒さや野生生物にも十分な注意、配慮が必要。
(下) 手作業での伐倒。地形などにより機械化ができない場所もある。



建築材などとして身近に利用されている「木材」。面積の多くを森林が占める水俣市でも、かつて林業は産業の大きな柱となっていました。昨今は、建築様式の多様化や輸入材の台頭などで往時の隆盛はありません。そんな中、地域に根ざして里山を守り、ふるさとの山を未来につなぐために奮闘しているのが、合同会社柏木農林です。



合同会社柏木農林は、代表社員である柏木光裕さんが、柏木さんの父の個人事業を引き継いで、平成30年4月に法人化した事業所です。

柏木さんは、事務所を置く湯出地域の出身。林業を営む父の元で里山に囲まれて育ち、遊び場でもあった山林は、生活の一部だったと言います。数年前、父が漏らした「廃業」の言葉に一念発起し、当時勤めていた森林管理署を退職。事業を引き継ぎ現在の法人を立ち上げました。

同社の主な仕事は、建築材や製紙原料などの素材生産です。一本一本、木の状態などに合わせて、また、季節や需給などにより変動する市場相場をにらみながら、仕向け先を柔軟に変え

ています。

森林育成も、重要な仕事の一つです。素材として伐採した後には、原則植林を行って、将来の素材となる木を育てています。

同社が伐採を行う山林は、主に地元の住民から買い受けたものです。下刈りなどの人の手が入らなくなった里山は、荒れて獣害などの原因にもなります。高齢化などで管理が難しくなった山林を引き受け、適切に管理し守るための受け皿としての役割も、地域に密着した同社が担っています。

植えた苗が利用できるほどに育つまでに、およそ50年が必要なのだそう。「孫の代ですね」と笑う柏木さんの目には、守り継がれた豊かな山林と、木に囲まれた温かな人の暮らしが共生する未来が映っているのかもしれない。

木を伐採、出荷し、その後植林を行い、森林育成をしています。森林の循環を行うことで、荒れた森林を減らし、元気な森林を増やしていければと思っています。気候に左右される大変な仕事ですが、未来につながるやりがいのある仕事でもあります。

